

愛知大学国際問題研究所所蔵

# LT・MT貿易関係資料 補巻 日中記者交換関係資料 全2巻

[監修・解題] 井上正也 印刷版●揃定価：本体 40,000 円+税 ISBN978-4-8433-6974-6 C3321 A5 判上製/クロス装  
(電子書籍=同時 1 アクセス：本体 44,000 円+税/同時 3 アクセス：本体 88,000 円+税) ★電子書籍版は KinoDen / Maruzen eBook Library のサービスでご購入になれます。

- 全2巻 2025年4月刊行
- ◆補巻1◆ 日中記者交換関係資料 1 印刷版=定価：本体 20,000 円+税 ISBN978-4-8433-6975-3 C3321  
(電子書籍版=同時 1 アクセス：本体 22,000 円+税/同時 3 アクセス：本体 44,000 円+税)
  - ◆補巻2◆ 日中記者交換関係資料 2 印刷版=定価：本体 20,000 円+税 ISBN978-4-8433-6976-0 C3321  
(電子書籍版=同時 1 アクセス：本体 22,000 円+税/同時 3 アクセス：本体 44,000 円+税)

## 関連企画のご案内

### 愛知大学国際問題研究所所蔵 LT・MT貿易関係資料 全8巻

[編] 嶋倉民生/井上正也 ●揃定価：本体 183,000 円+税 ISBN978-4-8433-5435-3 C3321 A5 判上製/クロス装  
LT 貿易とは、1962 年 11 月 9 日に高碕達之助と廖承志の署名により成立した民間貿易である。LT の名称は廖・高碕の頭文字に基く。LT 貿易の期間は 5 年と定められ、終了後の 1968 年からは、メモランダムから一字を取った MT 貿易と名称を変え、日中国交正常化後の 1973 年まで継続された。LT・MT 貿易は経済面に止まらず、国交未確立の状態において政治交渉のチャンネルとしても機能し、国交正常化への道筋を開いたことから、現在の歴史的意義は高く評価されている。本資料集は、日中経済協会から寄贈を受けた愛知大学国際問題研究所が所蔵する「LT・MT 貿易関係資料集」より、歴史的に重要な文書を精選のうえ、編集したものである。

- 全8巻の構成 発売中
- ◆第1巻◆ 調印書・取り決め事項/日中総合貿易協議会 定価：本体 23,000 円+税 ISBN978-4-8433-5436-0
  - ◆第2巻◆ 政治会談/交渉資料 1 定価：本体 22,000 円+税 ISBN978-4-8433-5437-7
  - ◆第3巻◆ 交渉資料 2 定価：本体 21,000 円+税 ISBN978-4-8433-5438-4
  - ◆第4巻◆ 交渉資料 3 定価：本体 20,000 円+税 ISBN978-4-8433-5439-1
  - ◆第5巻◆ 日中貿易関係資料 定価：本体 29,000 円+税 ISBN978-4-8433-5440-7
  - ◆第6巻◆ 補助事業実績報告書 定価：本体 25,000 円+税 ISBN978-4-8433-5441-4
  - ◆第7巻◆ 記者交換関係資料 定価：本体 14,000 円+税 ISBN978-4-8433-5442-1
  - ◆第8巻◆ トラブル関係資料/解題 定価：本体 29,000 円+税 ISBN978-4-8433-5443-8

### 戦後日中交流年誌 1945～1972 全17巻

[解説] 大澤武司 国交のない戦後 28 年間の日中交流の全貌。【収録資料】『戦後の中共年誌』内閣官房内閣調査室編纂 (推定、記載無し) / 『日本・中共交流年誌』内閣官房内閣調査室編纂 (第3巻～第5巻は推定、記載無し) ほか ●揃定価：本体 255,000 円+税

※表紙写真：1964 年 4 月 19 日に成立した「記者交換に関する会談メモ」(補巻2所収)

ゆまに書房 YUMANI SHOBOU  
〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-7-6  
TEL.03(5296)0491 FAX.03(5296)0493  
https://www.yumani.co.jp e-mail eigyou@yumani.co.jp



●特におすすめしたい方●  
日本現代史、日中関係史、中国現代史、政治史、メディア史、外交史、国際関係史の研究者、大学及び研究機関の図書館など。

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491 / Fax.03(5296)0493 年 月 日

ご注文書 愛知大学国際問題研究所所蔵 LT・MT 貿易関係資料 補巻 全2巻  
揃定価：本体 40,000 円+税 ISBN978-4-8433-6974-6 C3321 セット

取扱店  
お名前  
TEL ( )

愛知大学国際問題研究所所蔵

# LT・MT貿易関係資料 補巻 日中記者交換関係資料 全2巻

監修・解題 ◆ 井上正也 慶應義塾大学法学部教授

日中双方の新聞記者交換に関する  
高碕事務所と廖承志事務所の会談メモ

一九六四年四月十四日より十八日まで、高碕事務所と廖承志事務所は、日中双方の新聞記者交換問題に  
た。会談には、日本側から竹山祐太郎、岡崎嘉平太、古井嘉実と大久保任晴の諸先生が参加し、中国側か  
生が参加した。双方はつぎのとりきめをおこなった。

- 一、松村謙三先生と廖承志先生の会談の結果にもとづき、日中双方は新聞記者を交換することを決定した。
- 二、新聞記者交換に関する具体的な事務(注一)は、高碕事務所と廖承志事務所を窓口として連絡し処理する。
- 三、交換する新聞記者の人数はそれぞれ八名以内とし、新聞社(または通信社、放送局、テレビ局)につき一名の記者を派遣  
することを原則とする。(注二)
- 四、第一回の新聞記者の派遣は一九六四年六月中に実現することをメドとする。
- 五、双方は同時に新聞記者を交換する。
- 六、双方の新聞記者の相手国における一回の滞在期間は一年以内とする。
- 七、双方は相手側新聞記者の安全を保障するものとする。
- 八、双方は相手側新聞記者の取材活動に便宜をあたえるものとする。
- 九、双方の記者は、駐在国の外国新聞記者に対する慣性規定を遵守するとともに、駐在国が外国新聞記者にあたえるのと同じ待  
遇を受けるものとする。
- 十、双方は相手側新聞記者の通信の自由を保障する。
- 十一、双方が本とりきめを実行するなかで問題にた場合、高碕事務所と廖承志事務所が話し合いによって解決する。
- 十二、本会談メモは日本文と中国文によって作成され、両国文は同等の効力をもつものとする。高碕事務所と廖承志事務所はそ  
れぞれ日本文と中国文の本会談メモを一部ずつ保有する。

(注一) 入国手続をふくむ。  
(注二) 必要な場合、双方は各自の状況にもとづき八名のわくの内かで適当な調整をくわえることができる。

LT・MT貿易の一環として実施された日本・中国  
間での記者交換。新たに発見された資料が、その成  
立の経緯を明らかにする。

ゆまに書房

電子書籍版  
同時刊行予定

## 刊行にあたって

1962年11月に締結されたLT貿易協定は、日中両国で「準政府間貿易」を確立した画期的な合意であった。このLT貿易の枠組みの中で、1964年4月に松村謙三と廖承志との間で交わされた「日中双方の新聞記者交換に関するメモ」（以下、日中記者交換協定）は、戦後初めて日中両国の記者が相手国の首都に相互に常駐することを可能にした。

LT貿易とその後身のMT貿易（覚書貿易）については、愛知大学国際問題研究所が所蔵する原文書の一部を収録した『LT・MT貿易関係資料』が2018年に刊行されている。同資料には、日中記者交換協定の原本や、北京駐在特派員の申請書、訪日した中国人記者の手続きに関する文書が収められている。しかし、これらは1966年以降のものが中心であり、記者交換協定の成立過程の分かる文書は含まれていなかった。

今回、『LT・MT貿易関係資料』を補完するものとして、日中記者交換協定の成立前後の状況を記録した1955年から64年までの資料を刊行することになった。新たに見つかった資料は、日本新聞協会の国際課長であった笠置正明氏の遺品を譲り受けて、大切に保管されていたものである。その中身は、笠置氏自身が記者交換問題の経過をまとめたメモ、新聞協会と中国側との間で交わされた書簡や電報、新聞協会と関係官庁との懇談記録、LT貿易関係者との協議の記録、新聞協会の理事会・委員会記録など多岐に及ぶ。いずれも原文書としては初めて公開されるものであり、これまで詳細が不明であった記者交換メモの成立に至る歴史の解明に寄与することは間違いない。

ややもすれば、廃棄される運命にある資料を保管されてきた篤志に深い謝意を表すとともに、これらの資料を用いた新たな研究や日中交流の発展に期待したい。

(ゆまに書房編集部)

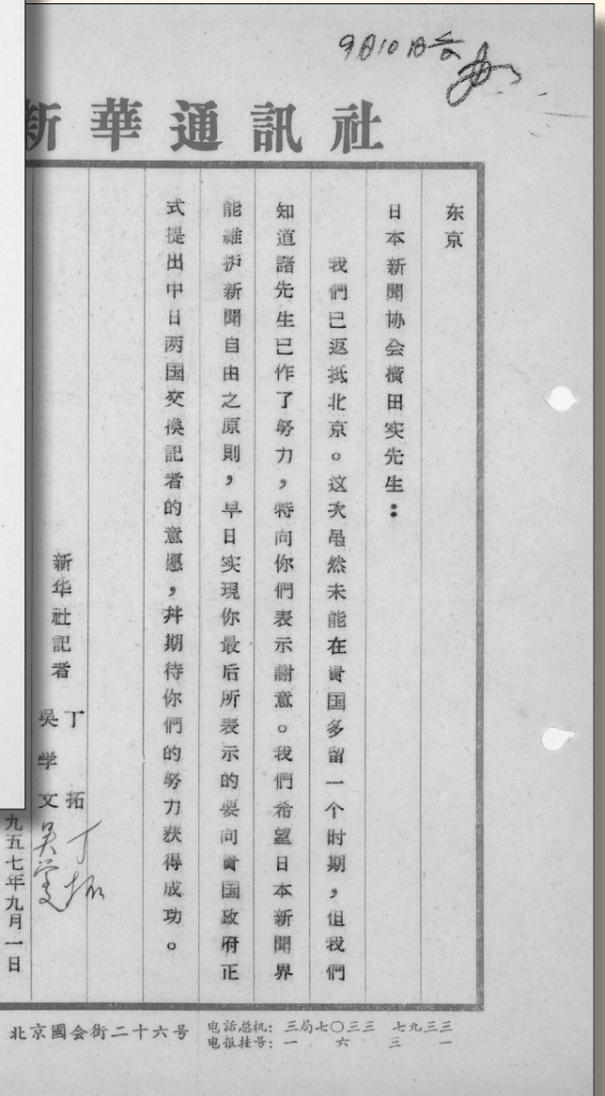
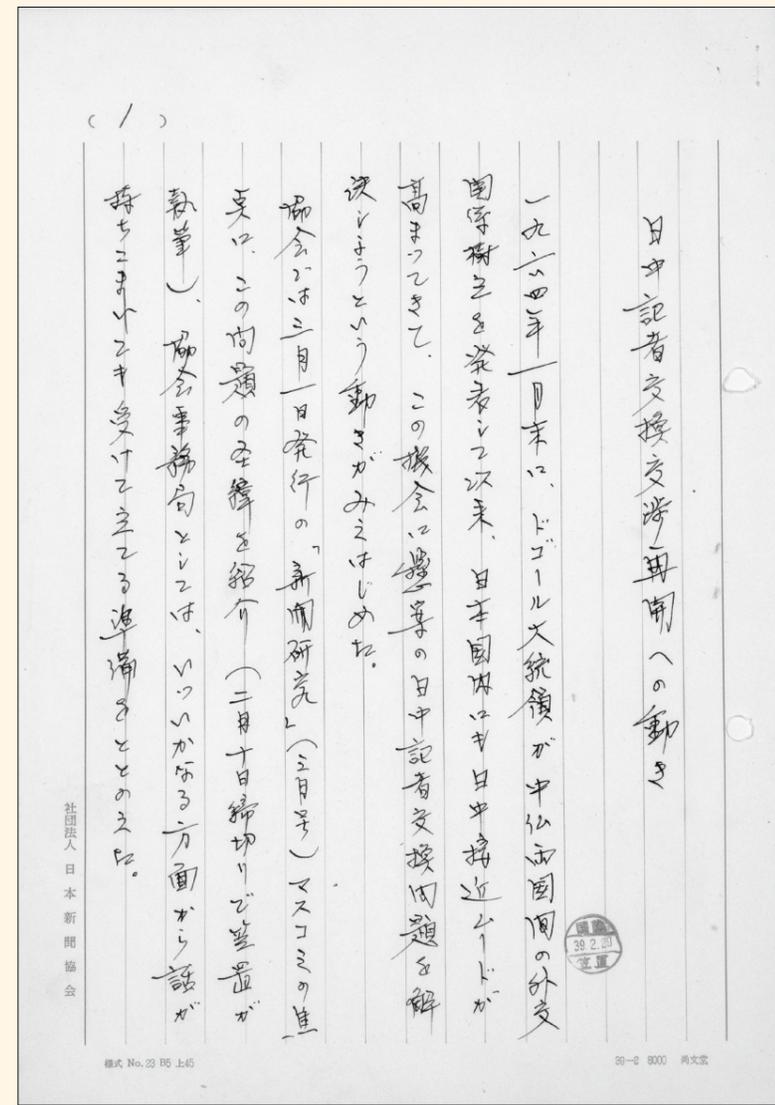
## 本書の特色

- 今回、新発見となる日中記者交換関係資料（1955～1964年）、約160点を影印形式で出版。
- 2018年に刊行された『LT・MT貿易関係資料集』には含まれていない、日中記者交換メモの成立に関する資料を収録。
- 1950～60年代における日本新聞協会と中華全国新聞工作者協会との間で交わされた電報、書簡、会談メモ等を多く含み、LT貿易成立以前における日中メディア間の関係を把握可能。
- 日本新聞協会と外務省との交渉記録、記者交換に関する協会内部の報告書、協会理事会に提出された資料等、新たに公開される資料多数。
- 第2巻に安良城竜太（元日本新聞協会職員）による「日中記者交換資料について」、井上正也（慶應義塾大学教授）による解題を附す。
- 電子書籍版では項目見出し（目次）での検索が可能。

## 本文見本

(約74%に縮小)

【左】日本新聞協会の資料  
「日中記者交換関係メモ」  
(一九六四年二月二十九日、  
補巻二所収)



## 各巻の 主な 収録資料

【右】丁拓、呉学文新華社記者より横田実日本新聞協会事務局長宛て、記者交換の実現を望む書簡（一九五七年九月一日、補巻一所収）

- 第1巻●中国新聞工作者協会会長鄧拓から日本新聞協会横田実事務局長宛の書簡（1957年10月9日）／「中共特派員問題に関する近藤外務省情報文化局長との会談内容報告」（1957年12月16日）／「呉学文・丁拓両氏との横田家における懇談要旨」（1958年1月5日）／「日中関係行き詰まり」（1958年6月21日）／「日中記者交換問題の経緯 昭和31年9月から昭和35年8月まで」（1961年5月13日）、他
- 第2巻●「本年にはいつてからの日中記者交換問題についての動き」（1964年2月27日）／「趙安博氏との会談メモ」（1964年2月27日）／「日中記者交換関係メモ」（1964年2月29日）／「呉学文の入国拒否と松村訪中に関する動き（3月25日～28日）」（1964年3月30日）／「上田常隆新聞協会会長の北京への電報」（1964年3月31日）、他／安良城竜太「日中記者交換資料について」／井上正也「日中記者交換資料 解題」